

特集私たちのみた世界：ヨーロッパのバス 旅行：1. デンマークという国

津端，昭子

(出版者 / Publisher)

法政大学地理学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

JOURNAL of THE GEOGRAPHICAL SOCIETY OF HOSEI UNIVERSITY / 法政地理

(巻 / Volume)

8

(開始ページ / Start Page)

37

(終了ページ / End Page)

38

(発行年 / Year)

1967-03-21

ヨーロッパのバス旅行

1966年7月31日、全国地理教育研究会のヨーロッパ旅行団が東京国際空港からにぎやかに出発した。一行は北まわりコペンハーゲン着、そこからバスで西ヨーロッパ各国をまわった。その中に法政大学地理学科の学生が8名が参加していた。以下、学生たちに依頼した手記をまとめたものである。

(編集部)

1. デンマークという国

デンマークは、確かに魅力的な国に違いありません。冬になると、りんごの実を全部とつてしまわないで、すずめのために残しておく、ということ。テレビは、朝9時から10時半までしか放送しない、日本の映画「ハラキリ」を日本人よりも夢中になつて見る、ということ。国土美化協会というようなものがあつて電柱一本立てるのにも美化をそこなわないかどうかと、ひと騒動起すこと。暗い冬のための準備か、日光吸収のためおへそを出したビキニスタイルで買物にでかけること。冬になると雪が降り花もなくさみしくなるので家の色をくふうして塗つたりすること。今年(1966年)の夏は、水銀柱が27度(ここでは驚異的な暑さです)にも達したため何人かの年寄りが心臓マヒで死んだ、etc.....。一つ一つ日本と比べてみると、その違いが、私にあまりにも大きく感じられるのです。恋人達は婚約すると自分達で所帯道具を整えます。その時いつ婚約破棄してもいいように必ず2つに分けられるように買うのです。そしてダンスなど2つにできないものは売つてお金にし平等にわけるので。デンマークが最も誇つてよいものは何といつても老後の保障だと思います。女62才、男67才になると、国が家まで老令年金をもつてきてくれます。70才から80才までの夫婦で月平均4万円。4万円というたいした額ではないように思えますが市電は割引き、市がエレベーターつきのアパートを建ててくれて部屋代が月60クローネ(約3127円)なので充分といえるでしょう。これら年金は働いている時に税金とともに払つているものなので人々は安心してもらいます。

家は全部自分達でつくりますが、計画から、作り始めるまでに10年かかり、そのかわりいちどできると100年ももつという事です。アパートの地下は広場になつていて自転車やバイクのタンク、ボイラーなどがあります。個人の家の地下室はフルーツのびんづめやジュースを貯蔵し、ミシンがあり、洗濯場や子供の遊び場としても使います。

デンマークの果物の中で美味しいのは西洋なしとぼたんきょうだけです。りんごは全くだめでほとんどジャムにします。バナナはアメリカから、トマトはイスラエルから輸入します。キャベツはナタで切ると言っていました。ほうれん草は1年のうち2週間位でるだけ。他の野菜類はほとんど



だめです。私は、日本のあの八百屋をこの上なくすばらしいと思いました。あの大きくて真赤なりんごやみかん、バナナ。1年中あふれるほど並んでいる果物をしみじみにつかしく思いました。

デンマークの悩みは農家のあととりがいないということです。酪農の国だけに政府は真剣に打開策を考案中と聞きました。農村では全く日本と同じ現象が現われています。それは「ムスメ1人にムコ6人」ということです。私はこれを聞いたとき、デンマークへお嫁に米ようかなと真剣に思いました。それほど私はデンマークに心ひかれました。

学部4年 津端昭子

2. フランスパン

フランスでは、朝昼晩と食事の度ごとにバケットという細長いパンを買いに行く。それはあのパリッとした焼き立てのパンを食べるため、

買いおきはまずいからである。焼き立てのは、手で押すと皮がパチッとわれ、口へ入れると齒ごたえがあり、かめばかむほど味わいがある。

朝は奥さんが食事の支度をしている間に、ご主人が新聞といつしよに買つてくるとか、昼は奥さんがこどもを乳母車に乗せ、日光浴を兼ねて買いに行くとか、ときにはこどもが行くなど誰でもが買いに行く。

パンはだいたいむきだしのままで、包装紙などに包んでくれない。持ち帰る様子がまたさまざま